

新任歓迎講演
皆さんの始まりの時に
東洋英和女学院大学付属
かえで幼稚園 永瀬真澄



この四月に保育者になった方、神奈川部に
入られた方、と一緒にキリスト教保育を担うこ
とができ、嬉しく思います。現在はどのような
毎日をお過ごしですか。この春は思いもよらな
いスタートの時に、悩んだり体調を崩した
りしませんでしたか。今年に限らず誰にとつて
も初めてのことに取り組む時は様々な心を使い、
疲れや不安を覚えるものです。

私が保育者になったばかりの頃のことを少し
振り返ってみます。クラスに成長がゆつくりで
体の動きも拙いYちゃんという女の子がいまし
た。秋になり運動会の種目を考えなければなら
ない時が来ました。種目は子どもたちが普段好
きになっていることから考えることになってい
ました。平均台や鉄棒が好きになっていた子ど
もたちのことを考え、障害物競走をしようと計
画しました。私はYちゃんも参加できることを
願って「頑張つて」と励まし、平均台や鉄棒を
繰り返し練習させました。ある日、Yちゃんは
トイレにも出て来なくなりました。私へ
のささやかな抵抗だったのでしよう。そこでや
つと私は自分の関わりや計画を振り返ることが
できました。それから私は周りの先生に助けて
いただいて運動会の種目を考え直しました。
私はYちゃんから大切なことを学びました。
また自分の考えだけでは思いつかないことを先
生方に気付かせていただきました。そのような
関わりの中で保育者として養われてきたことに
感謝しています。

役員会報告

書記 畠義信

- ◆総会前は、メールにて書面総会の準備をしてまいりました。
- ◆第二回役員会
五月二十七日(水)、清水ヶ丘教会ミッシェンホールにて、開催されました。
- ◆第三回役員会
八月二十七日(月)にウェブ会議形式で行いました。主な事をご報告いたします。
- ◆各園での新型コロナウイルス対策の情報交換をし、まとめてメールにてお知らせいたしました。
- ◆新任研修会歓迎会 中止
新入職者へのプレゼント、メッセージ送付について。
- ◆六月二四日(水)一六時に時を同じくして、それぞれの園で祈りを持って新しい先生方を歓迎して頂きました。
- ◆第一回講演会 中止
- ◆夏期講習会 中止
- ◆中堅保育者研修会 中止
- ◆第二回講演会 中止
- ◆第三回講演会
十一月十八日(水)。コロナ禍での園での危機管理・価値とリスク・深刻事故予防について、保育の安全研究教育センター掛札逸美先生(心理学博士)にリモートで講演を依頼しました。



- ◆クリスマス礼拝
十二月二日(水)一五時半〜清水ヶ丘教会よりライブで参加して頂けるように計画し準備いたします。それぞれの場所ですと心を同じくして礼拝を守りたいと準備しています。
- ◆コロナ禍での意見・情報交換の場
九月二十九日(火)一五時
各園の対応や入園募集等、それぞれ悩んだり、情報を得たいと願っている先生方が多くあるのではないかと、という事から、「意見・情報交換の場」としてZOOM開催にて、情報交換の機会を設けることと致しました。
- ◆設置者・園長・主任研修会
- ◆保育環境研修会
- ◆プロジェクト委員会
- ◆二〇二一年度計画
以上の研修会は感染状況などを見極めつつ、今回の役員会で決めてまいります。
- ◆次回役員会開催日
二〇二一年十月二十六日(月)十五時
ウェブ会議形式予定
夏までの予定は、緊急事態宣言もあり、中止にせざるを得ませんでした。二学期はリスクを回避しつつ、できる事を横断し計画、実行してまいります。
今までの集まる形での学びと異なりますが、今できる事を横断して参りますので、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

新任教師歓迎メッセージ2020

講師：捜真バプテスト教会牧師
学校法人捜真バプテスト学園理事長
小野慈美先生
上記メッセージを、部会ホームページの会員ページからご覧になることができます。是非、ご覧ください。

◇発行日 2020年10月7日
◇編集者 神奈川部会 広報担当
百合丘めぐみ幼稚園/大谷真理子
霞ヶ丘幼稚園/大西亜津子
◇デザイン 永野絵理世
◇イラスト提供 百合丘めぐみ幼稚園

編集後記

長梅雨に酷暑。ウイルス対策に加え熱中症にも対処する日々。大人は心奪われることの多い夏でしたが、二期、園に戻ってきた子ども達は大きな成長を与えられ、遊びに集中しています。どんな状況にあっても『成長させて下さるのは神様』ということをはっきりと示して頂いたように感じます。各園の取り組みが祝されますように。

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川部会
2020年10月7日
第138号

「密」な生活を願って

横浜本牧教会附属 早苗幼稚園
宮川周子

二〇二〇年度がこうなることを、誰が予想したでしょうか。四月になり、いよいよ新年度が始まると思っていた矢先に、緊急事態宣言による約二か月の休園期間。六月から幼稚園が再開しましたが、分散登園や消毒作業など、いつも以上に気を張る日々を過ごされていることでしょう。また、幼稚園自体がこんなにも「密」な生活だったのかと、改めて考えさせられます。今まで当たり前に行ってきた生活・行事も、見直さなくてはなりません。

聖句

「見よ、兄弟が共に座っている。
なんと恵み、
なんと喜び。」

詩編 133:1



どもたちと大きな声で思いつき讃美歌を歌うことも、ハグをすることも、大勢で集まることも、今は難しくなっています。それでも、神さまのことを想って、同じ時を過ごす。礼拝を「守る」大切さ、一緒に礼拝を守る喜びを、かみしめることが出来ました。礼拝堂に、子どもたちみんなで礼拝を守れることが、こんなにも喜びのことなのかと、本当に神さまの恵みを感じた日々となりました。

この時を通して、改めて与えられた聖書が、詩編一三三編一節です。「見よ、兄弟が共に座っている。なんと恵み、なんと喜び。」これは、イスラエルの全部族が、神さまの御前に共に座り、神さまに礼拝をささげている様子です。紀元前五七八年エルサレムが陥落し、神殿が破壊され、捕囚とされたイスラエルの民たち。もう一度エルサレムに戻り、そこで礼拝が出来るようになることは、イスラエルの民すべての切なる祈りだったと思います。その願いが、祈りが、二十年以上の時を経て、ようやく叶いました。神殿が再建され、神さまの御前に礼拝を守れるようになったのです。また、そこで盛大に祝われる祭りに、国内だけでなく巡礼者もやって来て、祝いの食卓を共に囲み、共に過ごすこと



ができたのです。そして皆が一つの家族となつて、礼拝をささげるのです。それは、どんなに大きな喜びとなつたことでしょうか。まさに、アメイジング・グレイスです。「なんと」という恵み、なんとという喜び(二節)という言葉がそれを示しています。

もしかすると、詩人はそのような日が再びやってくると、考えていなかったかも知れません。むしろ実現不可能なことだと思っていたかも知れません。それが実現したのは、神さまの恵み以外のなものでもありません。新型コロナウイルスの影響により、いまだかつてないことを私たちは経験しています。しかし不満を言い続けるのではなく、このような時だからこそ、神さまの恵みに感謝する、いつか今までのように「密」な生活ができるようにと願ひ、祈りつつ過ごしてまいりたいと願ひます。

こころが満たされる 聖句「喜びと平和とであなたがたを満たす」
—ローマの信徒への手紙15章13節

今年度の保育をどのように考えるか

— コロナウイルス対応を含めて —

主を見上げて

心をこめた保育

こひつじ学園

園長 九貫幸恵

昨年度末から、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、今までに経験したことのない対応を迫られる毎日でした。

六月初旬から幼稚園部も保育所部もクラスごとの分散登園を始めました。久しぶりに登園した子どもたちは、お友だちとの再会を喜び、それぞれ自由に遊びだし、新人の子どもたちも楽しそうに過ごし、子どもたちの声と笑顔が戻ってきました。その時この子どもたちの笑顔を大切にしていこうと思えました。今まで大切にしてきた活動がコロナ禍でできなくなることが心配だった私自身に気づき、神様にお委ねし、祈りました。日常の遊びを深めていくこと、子どもの「やりたい」につながる環境をつくること、また今の状況の中で子どもとできる楽しいことを一緒に見つけていこうと思えました。



今、礼拝では手話の賛美を喜んで捧げています。年長のお泊り会の代わりに一日のイベントを計画しましたが、年長の子どもたちはその日を楽しみに待ち、忘れられない一日になったと喜びました。神様は私たちの思うところをはるかに超えて祝福してくださるお方であることを感謝します。

毎日の消毒や密にしないために多くのテーブルを出すなどの今までなかった作業が多くなり、職員の負担も増えましたが、子どもたちのために労してくださることも感謝です。職員が協力し、考え、話し合い、祈る中で新しい歩みを示してくださる神様を信じ、心をこめて保育し、子どもたちを愛しておられる神様をいつも見上げていきたいと思えます。

何ができるか

希望が丘教会附属
めぐみ幼児園

園長

田名網仁

新型コロナウイルスが確認された当初、ここまで長期的な対応に迫られるようとは、思いませんでした。非常事態宣言による活動自粛に伴い、子ども達は自由登園の日々が続きました。今までは当たり前に行われていた行事も中止になり、ほぼ二か月遅れで物事が進んでいるような感覚です。そのような中にあっても神様は最善をなさって下さるということを感じることが多々ありました。

登園する子どもが少ない中、入園した子ども達がゆつくりと園に慣れて行くことができました。例年ですと、四月は、新しい環境に戸惑い、親子の別れでバタバタする時期ですが、今年度は、それらをゆつくりと着実に行えました。

又、初めての試みを色々行いました。ZOOMによる保育、LINEを使つての日曜礼拝、YOUTUBE配信の保護者会等、各ご家庭に毎週、製作キットをお届けしたりもしました。

教師が共に祈り、一生懸命に「今の状況で、私たちに何ができるか」を連日考え共有できたのも大きな恵



みでした。そして、各ご家庭もこのような状況で不安を抱えていることから、どのように寄り添うかということも共に考え実践致しました。お一人お一人を園に招いて、面談したり、ZOOM面談をして、皆さんと会話を致しました。完全ではなかったかも知れませんが、その時々に行えることを行えたことはとても良かったです。今後も、予断を許さない状況が続くかもしれませんが、神様が最善へと導いて下さること、一日も早く終息することを祈ります。

成長のときとなるよう

神奈川幼稚園

園長 兼清啓司

神奈川幼稚園が立地している横浜市は、今回のウイルスによる影響が特に大きかった地域の一つです。当園も四月～五月は休園せざるをえず、ようやく六月から分散・午前保育を開始し、七月からは全員・全日保育となりました。

春・夏のスケジュールが中止や延期となりましたが、現在は徐々に平時に戻りつつあります。

具体的なウイルス対策としては、朝、入口で非接触式体温計による検温、こまめな消毒、タオル掛けの使用禁止、手洗いの励行、マスク着用(子ども、保護者、職員、行事など)における保護者の参加制限などです。最も気を遣うのがお弁当の時間です。スペースの関係上、向かい合つての食事となりますので、ついたてをセツトしました。

とまあ、ネガティブな情報が並びましたが、悪いことばかりではありません。今回の件では、園として以下のような点について成長がありました。

① 衛生意識の向上。手洗いの仕方



ラミネートで掲示したり、掃除の仕方をより入念にしたり、皆の意識が変わりました。

② 連絡・情報公開のスピード感。何か決まったことがあると、すぐに一斉メールにて送信するようにしました。

③ 他者を思う気持ちの大切さ。休園中、YouTubeで子ども向けの動画を配信したところ、逆に先生を励ます手紙がたくさん届きました。また、一日の初めに「休んでいるお友達たちのために祈る時間」を設けました。

苦しい状況が続きますが、この試練がそれぞれの園にとって成長のときとなりますように祈ります。

希望と勇気

中瀬新生保育園

園長

黒澤裕子

七月一日より川崎市からの登園自粛が解除されたため、全園児の登園が再開しました。四月一週間だけ登園しその後は自宅で過ごした子どもや、「慣らし保育」途中で二か月以上お休みをした子どももいるため、七月一日が今年度の再スタートという状況です。

四月初めの職員会議で、新型コロナウイルスとの共存という現実をふまえ、今年度の行事の基本方針につき話し合いをしました。「実施できるとい希望を持ちつつ準備をし、その時の感染状況などから場合によっては勇気をもって中止をする」と決め、保護者にも伝えました。「希望」と「勇気」が今年度の行事を含め保育をするうえでのキーワードです。

実際、四月中旬に計画をしていた親子行事は、実施二日前に神奈川県感染者数増加により中止としました。楽しみにしていた子ども達の気持ちを考え、親子行事ではなく日々の保育の中で、準備をしてきたゲーム等を楽しみプログラムに変更をし



て行いました。特に今年度の行事に關しては、直前に内容の再検討をする必要や、臨機応変に取り組む柔軟な姿勢が求められると感じています。自粛中もほぼ毎日登園していた子どもと、長期にわたりお休みをしていた子どもとは経験値や活動量・体力に差が出ています。一人ひとりの子どもの成長の違いを考慮し日々保育をしていくことに変わりはありませんが、七月再スタートという現状をふまえ、各年齢の年間保育計画などの見直しをしています。このような時だからこそ、焦らず欲張らずより丁寧に一人ひとりに関わる保育を心がけていくことを職員と申し合わせていきます。